

## 令和4年度における松本地域の取組実績



## 7 松本地域の発展方向

松本市・塩尻市・安曇野市・麻績村・生坂村  
山形村・朝日村・筑北村

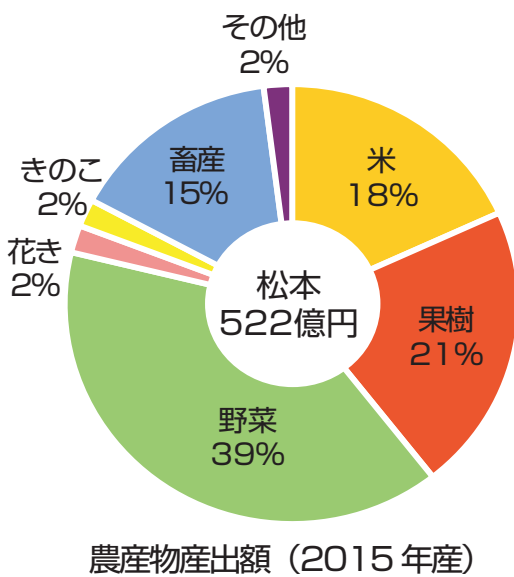
# 豊かな水と大地の力を結集！ 未来につなぐ松本農業

### 農業・農村の特徴

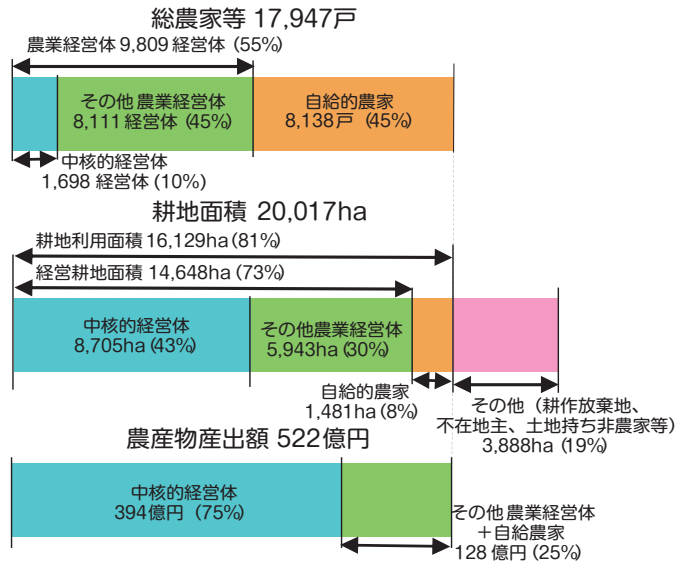
松本地域では、多様で豊かな自然や風土と、大消費地に比較的近い立地を活かして農業が展開されています。

水田地帯では、豊かな用水を活用し、水稻とともに麦・大豆等が生産され、大規模な農業法人・集落営農組織も育っています。畑作地帯では、かんがい用水を活用した葉野菜等の特産野菜、りんご等の果樹など、県内屈指の産地が築かれています。また、畜産や水産も盛んに行われており、近年は夏秋いちごやワイン用ぶどうなどの生産も増加しています。

一方で、農業者の約7割が65歳以上と高齢化が進み、地域農業を継承する体制づくりが課題となっています。



【2015年】 (2015農林業センサスから推計)



### めざす姿

#### I 次代へつなぐ松本農業

- 地域の農業をけん引する中核的経営体が、整備・集積された基盤をフルに活用して効率的で生産性の高い営農を展開するとともに、次代を担う若手農業者が育っています。
- 立地条件や風土を活かし、安全・安心で環境にやさしい生産技術を基礎として、県オリジナル品種等マーケットニーズに応える高品質な農産物（畜産物、水産物を含む。以下同じ）の生産や新技術導入等により、個性豊かで、信頼される総合供給産地として発展しています。
- 松本地域特産の農産物について、その魅力が広く発信され、多様な取引が行われるとともに、6次産業化がビジネス展開されています。



## II 消費者とつながる松本の食

- 「おいしい信州ふード」SHOPをはじめ多くの販売店等において、松本地域の魅力ある農産物や加工品が盛んに販売されるとともに、情報発信されています。
- ホテルや旅館、飲食店などで、松本特産の食材を活用した食事が提供され、豊かな自然や上高地などの景勝地とともに、地域の魅力として享受されています。
- 学校や地域における食育活動の展開により、地域の食材のおいしさや「食と農」の大切さが理解されるとともに、健康的でバランスの良い食事が摂られています。

## III 人と人がつながる松本の農村

- 中山間地域などにおいて、多様な担い手や集落営農組織等により、地域の特色を活かした活力ある農業や農村生活が営まれています。
- 農業者や地域住民など地域ぐるみでの協働により、魅力ある農村の景観や多面的機能が農村コミュニティとともに大切に維持されています。
- 農地・農業用施設災害や野生鳥獣被害がなく、農業生産や暮らしが安心して行われています。

### 地域の特徴的な取組

- 松本地域の農業を担う新規就農者の確保と中核的経営体を育成します。
- 県育成のオリジナル品種等市場性や消費者ニーズの高い品目の品質向上と生産拡大を推進します。

### 施策の展開方向

#### I 次代へつなぐ松本農業

##### 重点取組 1 松本地域の農業を担う新規就農者の確保と経営体の育成

松本地域は、米をはじめ野菜、果樹や畜産物などの総合供給産地としての地位を確立していますが、農業者の高齢化等による生産力の低下が課題となっています。

そのため、市村やJA等と連携して、地域農業のけん引役となる「中核的経営体」の確保に向けて、新規就農者の確保、集落営農組織の育成、経営体の経営力強化を進めます。

達成指標	現状 (2016年)	目標 (2022年)
□ 新規就農者数 (45歳未満)	28 人/年	45 人/年
□ 中核的経営体数	1,725 経営体	1,906 経営体
□ 法人経営体の数	132 経営体	155 経営体

#### 施策の展開方向

- 新規就農者の確保、栽培技術・経営管理の習得等による育成と地域への定着を支援
- 「人・農地プラン」の推進や担い手を対象とした支援策の活用等により、認定農業者、集落営農組織等中核的経営体の確保・育成と経営の安定・発展を支援
- 地域農業をけん引する経営体や集落営農組織について法人化と経営力強化を支援
- 大型の経営体や農繁期を支える労働力の新たな確保方策の研究・検討の推進



【新規就農者の研修会】



## 重点取組 2 農地や水路など農業基盤の整備と農地利用の集積・集約

松本地域では、農地の整備率や利用集積はおおむね順調に推移していますが、農業用施設の更新が課題となっています。

今後は、規模拡大や高収益作物への転換等による一層の経営力強化と効率化に向けて、市村等関係機関・団体と連携し、生産基盤の整備・汎用化等を計画的に推進するとともに、農地利用についても更に集積と集約化を進めます。

### 達成指標

### 現状 (2016年)

### 目標 (2022年)

□ 農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	—	3 か所
□ 農地基盤整備及び水田汎用化面積	126 ha	184 ha
□ 中核的経営体への農地の集積率	47.8 %	65 %

### 施策の展開方向

- 営農効率を高めるため、農地区画の大型化や水田の汎用化等の基盤整備を推進
- 水管理の省力化と用水の安定供給のため、老朽化が著しい水路やかんがい施設の更新を推進
- 人・農地プランの実現に向けて、農地中間管理事業等による中核的経営体への農地利用の集積・集約を促進
- 荒廃農地の発生防止と再生を進め、ワイン用ぶどうなど需要のある作物生産での活用を推進



【農業用水を送水する水管橋】

## 重点取組 3 消費者・実需者が求める農産物の総合供給産地の確立

松本地域は県内屈指の農業地帯で、鮮度の高い農産物を全国に向けて供給する責任産地として、また、ニーズの高い県オリジナル品種をはじめとする多彩な農産物を生産販売するブランド力の高い産地として、引き続きその維持発展を図ります。

さらに、生産性向上や省力化が図られる新しい技術の積極的な導入を進めるとともに、環境にやさしい生産方式や生産工程の改善等をめざした取組を一層推進します。

### 達成指標

### 現状 (2016年)

### 目標 (2022年)

□ 実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積 (米、麦、大豆、そば)	329 ha	738 ha
□ りんご高密度植栽培・新わい化栽培面積	75 ha	150 ha
□ 自給飼料の栽培面積	446 ha	480 ha



## 施策の展開方向

### 【米穀類及び水田活用】

- 風さやか、信州ひすいそば、ホワイトファイバー等県育成品種の生産拡大と品質向上を支援
- コシヒカリ等米の食味等品質向上対策の推進
- 需要量に応じた米生産を柱として、労力に見合う高収益作物の導入による複合経営を推進

### 【果樹】

- りんご高密度植栽培・新しい化栽培の拡大とともに県育成品種の実産拡大を支援
- 消費者ニーズの高いぶどう品種やワイン専用品種の品質向上と生産拡大を支援
- 優良品種等への改植と合わせた樹園地継承による園地と産地の若返りを推進



【りんご高密度植栽培・新しい化栽培】

### 【野菜・花き等】

- 夏秋いちごやたまねぎ等、マーケットニーズの高い品目の生産拡大や、産地における集出荷・販売体制の整備を支援
- レタス、すいか、ながいも、わさび等の地域ブランド品目の生産安定と販路拡大を支援
- ブライダル需要等ニーズに対応した花きの生産安定と品質向上を支援



【夏秋いちご栽培】

### 【畜産】

- 畜産経営の体質強化のため、県育成等優良品種による自給飼料の増産を推進
- 意欲ある畜産経営体を核とした地域ぐるみでの高収益型畜産の実現を支援

### 【共通】

- ICTや機械収穫など新技術の導入検討と普及
- エコファーマー認定や信州の環境にやさしい農産物認証等の取組の促進
- 農産物の安全・安心の徹底や経営効率の向上等に向けた、生産工程の管理や改善を推進
- 商談会や銀座NAGANO等でのイベント開催による販売促進と知名度の向上
- 意欲ある農業者や、農業者と加工事業者等とのマッチングによる6次産業化ビジネスへの取組を支援



【松本マラソンでの地元農産物のPR】





## II 消費者とつながる松本の食

### 重点取組 4 松本地域の食材を活かした地消地産や食育活動の推進

地域の消費者や観光客からニーズの高い新鮮で多彩な野菜・果実・養殖魚などやその加工品について、一層の販売促進や情報発信の強化に取り組むとともに、観光業や食品加工業等との連携により地消地産を推進します。

また、子供の頃から「食や農」への関心が大切であるため、大人も含めて継続的な食育活動の取組を進めます。

達成指標	現状 (2016年)	目標 (2022年)
□ 売上高1億円以上の農産物直売所の数	12 施設	14 施設
□ 「おいしい信州ふーど」SHOP登録数	208 店舗	256 店舗
□ 学校給食における県産食材の利用割合	51.2 %	54 %

#### 施策の展開方向

- 農産物直売所等の品揃えの充実など魅力アップと地域食材に係る情報発信の強化
- SHOPとの連携強化等「おいしい信州ふーど」の取組などによる農産物の魅力向上と活用の促進
- 宿泊業や飲食業の団体等と連携した地域食材の利用拡大の推進
- 学校や給食センター等との連携による給食での地域食材の活用の推進
- 農業体験や地域の食文化の伝承など食育活動を行うグループの育成と活動を支援



【そばの収穫体験】

## III 人と人がつながる松本の農村

### 重点取組 5 風土豊かな松本地域の農山村の活性化

松本地域の農山村において、豊かな風土や地域の特色を活かした農業を維持継承するため、担い手の確保育成、農産物生産や農村コミュニティの活性化等を支援します。

また、防災機能の強化や野生鳥獣被害の防止のため、農業・林業等の分野を超えて、市村・JA等と連携して有効な対策を講じます。

達成指標	現状 (2016年)	目標 (2022年)
□ 地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	8,814 ha	11,278 ha
□ 野生鳥獣による農業被害の減少額	273 万円/年	500 万円/年
□ 農地等の安全確保面積	115 ha	516 ha

#### 施策の展開方向

- 中山間地農業を支える多様な担い手の確保・定着や集落営農組織等の設立と運営を支援
- 農業活性化施設の整備等による特産品の加工・販売や開発等の支援
- 直接支払制度の活用により、用水路等の維持や農産物生産の継続のほか、住民参加による地域活動の活性化を支援
- 野生鳥獣による被害軽減のための防護柵の設置・管理など地域ぐるみでの取組を促進
- ため池の耐震補強・地すべり対策の実施による安全安心な農村生活環境の維持
- 小水力発電など再生可能エネルギーの有効活用を支援



【共同活動による排水路の泥上げ】

# 令和4年度 松本地域の取組実績

## ■達成指標の進捗状況

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	2022年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	45歳未満の新規就農者数	28人	45人	27人	45人
	中核的経営体の数	1,725経営体	1,906経営体	1,976経営体	1,906経営体
	法人経営体の数	132経営体	155経営体	163経営体	155経営体
2	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備か所数	—	3か所	3か所	3か所
	農地基盤整備及び水田汎用化面積	126ha	184ha	157ha	184ha
	中核経営体への農地の集積率	47.8%	65%	50.6%	65%
3	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積	329ha	738ha	764ha	738ha
	りんご高密度栽培・新しい化栽培面積	75ha	150ha	127.4ha	150ha
	自給飼料の栽培面積	446ha	480ha	484ha	480ha
4	売上高1億円以上の農産物直売所の数	12施設	14施設	16施設	14施設
	おいしい信州ふードSHOP登録数	208施設	256施設	204施設	256施設
	学校給食における県産食材の利用割合	51.2%	54.0%	48.2%	54.0%
5	地域ぐるみで取組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	8,814ha	11,278ha	11,371ha	11,278ha
	野生鳥獣による農業被害の減少額	273万円/年	500万円/年	▲665万円/年	500万円/年
	農地等の安全確保面積	115ha	516ha	503ha	516ha

### 重点取組1：松本地域の農業を担う新規就農者の確保と経営体の育成

- 新規就農者の確保、栽培技術・経営管理の習得等による育成と地域への定着を支援
  - ・ 里親研修生6人に対する巡回を行い、就農に向けた相談活動を実施
  - ・ アグリマスターセミナーを開催し、技術・経営管理能力の向上を支援（基礎コース4回述べ37人、経営管理コース集合研修1回15人）
- 人・農地プランの推進や担い手を対象とした支援策の活用等により、認定農業者、集落営農組織等の中核的経営体の確保・育成と経営の安定・発展を支援
  - ・ 安曇野市内の集落営農組合組織に対して、収益性の改善を図るために必要な機械導入（1地区）、集落ビジョンの作成（2地区）及び、ほ場整備に向けた営農計画の作成（1地区）を支援

### 重点取組2：農地や水路など農業基盤の整備と農地利用の集積・集約

- 営農効率を高めるため、農地区画の大型化や水田の汎用化等の基盤整備を推進
  - ・ 人・農地プランの重点地区（12地区）において、中間管理事業や補助事業を活用し、農地の大区画化やかんがい施設の更新整備により、担い手農家への農地集積を支援



【御道開渡工区ほ場 朝日村】

### 重点取組3：消費者・実需者が求める農産物の総合供給産地の確立

- 風さやか、信州ひすいそば、ゆめかおり等県育成品種の生産拡大と品質向上を支援
  - ・ パン用小麦「ゆめかおり」の砂壤土地帯への作付け拡大を進めるための実証ほを3か所設置し、基礎データを関係機関と情報を共有
  - ・ めん用小麦「東山55号」の現地適応性を検討するための実証ほを3か所設置し、基礎データを関係機関と情報共有

- りんご高密度植栽培・新しい化栽培の拡大とともに県育成品種の生産拡大を支援
  - ・ トレリスの強化に向けた構造等の検討会を7月に1回開催し、情報を共有
  - ・ 「シナノリップ」の生産拡大に向けた品種特性を把握する実証ほを1か所設置し、現地検討会を2回開催（8月、12月）
- レタス、すいか等の地域ブランド品目の生産安定と販路拡大を支援
  - ・ スイカ炭疽病防除のため、クロープナビを4か所設置し、発生予察情報を7回発信（4月～7月）するとともに、防除の徹底を指導
- ブライダル需要等ニーズに対応した花き生産の作柄安定と品質向上を支援
  - ・ カーネーションの夏秋切り作型の品質確保に向けた試験ほを1か所設置し、基礎データを関係機関と情報共有
- 畜産経営の体質強化のため、県育成等優良品種による自給飼料の増産を推進
  - ・ とうもろこしの優良品種の展示ほを1か所、ソルガムの新品種の展示ほを2か所設置し、基礎データを関係機関と情報共有
- ICTや機械収穫など新技術の導入検討と普及
  - ・ 先進的な技術導入の実装を進めるため、農業用ドローンの実演検討会を1回開催（6月）
- 農産物の安全・安心の徹底や経営効率の向上等に向けた、生産工程の管理や改善を推進
  - ・ 国際水準GAPの取組に関心のある16者を対象とした合意形成を支援
- 意欲ある農業者や、農業者と加工事業者等とのマッチングによる6次産業化ビジネスへの取組を支援
  - ・ 加工品等の販路拡大及び、新商品の開発を目指す法人1社を支援



【スイカ炭疽病発生予察 松本市】



【ドローン実演検討会 安曇野市】

#### 重点取組4：松本地域の食材を活かした地消地産や食育活動の推進

- 農産物直売所等の品揃えの充実など魅力アップと地域食材に係る情報発信の強化
  - ・ 直売所の売上向上を図るため、直売所案内人を6回派遣
  - ・ ホームページで管内直売所の情報を53回発信
- 学校や給食センター等との連携による給食での地域食材の活用を推進
  - ・ 関係機関と連携し、小学生を対象としたりんご体験学習を3回（6月～11月）、食を通じた味覚の授業を2回開催（11月）



【りんご体験学習 安曇野市】

#### 重点取組5：風土豊かな松本地域の農山村の活性化

- 直接支払制度の活用により、用水路等の維持や農産物生産の継続のほか、住民参加による地域活動の活性化を支援
  - ・ 多面的機能支払や中山間地域農業直接支払を活用し、地域住民が共同で取り組む水路や農道等の地域資源の質的向上活動を支援（8市村）
- ため池の耐震補強・地すべり対策の実施による安全安心な農村生活環境の維持
  - ・ 県営農村地域防災減災事業により、農業用ため池1か所の耐震補強測量設計のほか、堤内水路改修及び地すべり対策を実施



【小坂田池 塩尻市】